週間天気予報解説資料

2025年4月26日10時00分発表
気象庁

予報期間　4月27日から5月3日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 29日は、低気圧が北日本を通過して千島近海へ進み、高気圧が東シナ海へ移動する。
- 30日から5月1日は、高気圧が日本付近から日本の東へ移動する。低気圧が中国東北区へ進み、気圧の谷がサハリン付近へのびる。
- 2日から3日は、低気圧が沿海州付近へ進み、気圧の谷が日本海から北日本付近へ進む。

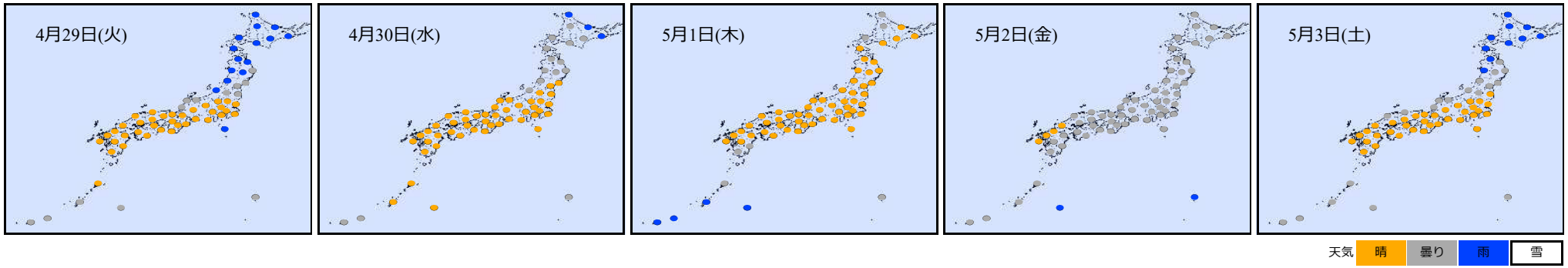
＜防災事項＞　11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

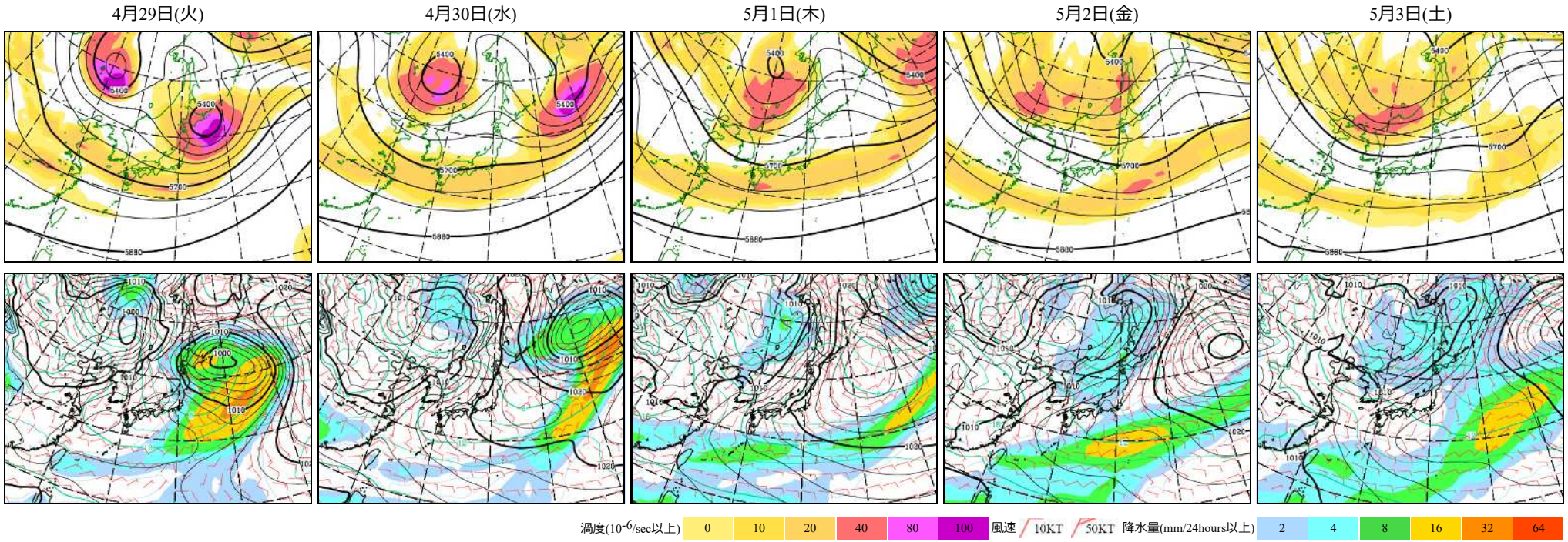
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の３～７日目の天気予報案　(11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

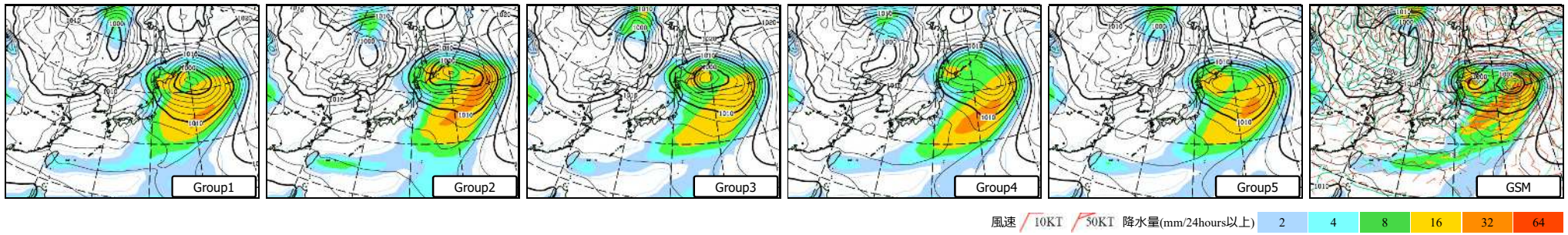


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、5月1日は晴れる所が多い。
- 東日本と西日本は、晴れる日が多いが、2日は曇りの所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、29日と30日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図　上図：500hPa高度線、渦度　下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月29日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図　海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料（ENS）は、29日は北日本を通過する寒冷渦が深くなり、低気圧が明瞭となったことに対応して、北日本付近の降水確率が大きくなった。30日頃は、日本付近のリッジが強まり、日本の東の高気圧が強まった。2日から3日は、日本海から北日本付近へ進む気圧の谷が明瞭となり、北日本付近の降水確率が大きくなった。
- 2日から3日は、各モデルとも気圧の谷が日本海から北日本付近へ進む予想となり、ENSの予想ともおおむね揃っている。
- スプレッドは期間を通して比較的小さいが、期間の終わりは5400mの特定高度線のばらつきが大きく、日本の北を東進するトラフの動向は不確実性が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。